

# CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

2010年4月

編集:[editor@cnar.jp](mailto:editor@cnar.jp) 広告:[pr@cnar.jp](mailto:pr@cnar.jp) 読者登録:<http://cnar.jp>

Copyright 2010 CNA Report Japan. All rights reserved.

## TANDBERG EBC レポート

### 日本タンバーク

### TANDBERG Executive Briefing Center

### ツアーレポート

日本タンバーク株式会社は、売上がこの1年で3倍に拡大し、この数ヶ月で社員7人増員する予定という。そういった中、「TANDBERG Executive Briefing Center(エグゼクティブ・ブリーフィング・センター)」を、都内にある同社の本社オフィスに4月1日開設した。CNAレポート・ジャパンの橋本は、4月14日に記者発表会にあわせEBCツアーに参加させていただいた。

このEBCは、「タンバークの価値を体感できる場」とともに、「ビジュアルコミュニケーションを経営に活かす提案をする場」と同社では説明する。タンバークが提案するビジュアルコミュニケーションの全体像や今後同社が目指す方向性を理解してもらうとともに、最適なソリューションの導入検討に役立ててもらいたいと同社では考えている。

ビデオ会議システムは、映像や音声、データを扱う通信端末であるため、単純にカタログや仕様を見るだけで最適な機器を選定することは難しい。特に初めて導入を検討している企業にとってはなおさらだ。「そのため、オフィスの会議室などを再現しているEBCで実際に製品を試してみること、ビデオ会議の導入効果や、システムの性能、使い勝手についての理解を深めてもらえればと考えている。」(日本タンバーク)

EBCは、7階と11階との2フロアに設置されており、ガイド付きツアーは、11階の本社オフィスの受付のあるところからスタートする。



日本タンバーク受付、正面にTANDBERG E20が見える。EBCのガイド付きツアーはここから始まる。

受付に電話機が置かれている会社はよくあるが、ここでは「TANDBERG E20」が設置されている。ビデオ会議端末は遠隔の人と通話するためのものという認識が一般的だが、このような使われ方は、初めて見る人からすると面白く感じる人もいるかもしれない。この受付は、受付というオフィスの一機能であるけれども、そういった使い方もあり、それとなくスマートに提案している場のような感じにも見える。

その受付での説明後、タンバークの企業概要を紹介するプレゼンテーションコーナーに案内をいただいた。

そこではまずディスプレイに表示された、いくつかのスライドを拝見した。日本タンバークは、2002年7月に設立され、2007年1月には大阪オフィスもオープンした。その間ワールドワイドの市場でのシェアを中堅クラスからトップシェアの企業までに成長した。現在では90カ国で同社製品を提供している。市場の拡大とともに、ビジュアルコミュニケーションの有効性に対する認知が広がってきていると説明する。

またこのコーナーでは、今後のタンバークが目指す方向性や将来像を示すビデオも紹介している。ビジュアルコ

コミュニケーションが職場だけでなく家庭などにもユビキタスに浸透していく近未来が描かれている。

昨今の端末やネットワークの技術の進化を踏まえてこういった映像を観ると、ビデオが描くビジュアルコミュニケーション社会は全くの絵空事ではなく、明日にも実現できそうな現実感覚に近づいてきたことを感じる。

しかし、こうなると、videoconferencing(ビデオ会議)という言葉はそぐわなくなっていくだろう。今後同社では、visual communication(ビジュアルコミュニケーション)という呼び方に変えていくという。こうなると、電話では今まで”say hello”だったのが、相手の顔が見えるコミュニケーションになるため、タンバークが言うところの”see hello”になっていくのだろう。

またこのビデオには、タンバークの企業として目指す究極の企業像も込められている。人々のあらゆるビジュアルコミュニケーションにオールラウンドに端末からネットワークまでを提供することを目指している。壮大なビジョンを持った企業と見える。

受付の隣には、デスクトップ製品を展示したプロダクトショーケースのコーナーがある。このコーナーでは、先ほどの受付にあった「E20」の他、PC ソフトウェアの「Movi」、そして最近

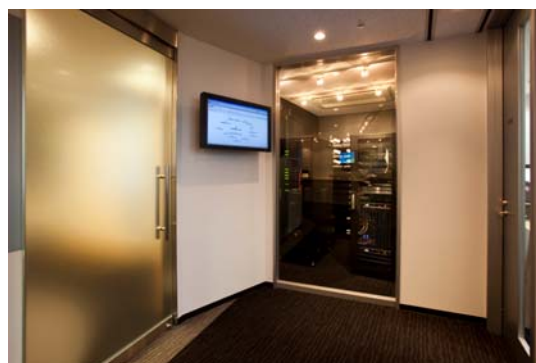


プロダクトショーケース

や、出張先、または、テレワークなどいろいろな場所でビデオ会議が活用できるようになる。

発表され 5 月から出荷開始する「EX90」が展示されている。

ビデオ会議というイメージが強いが、これらのデスクトップ製品は、ビデオ会議の裾野を広げるモビリティの特徴を持つ。これにより、会議室だけでなく、デスク、打合せ卓、あるいは、移動中



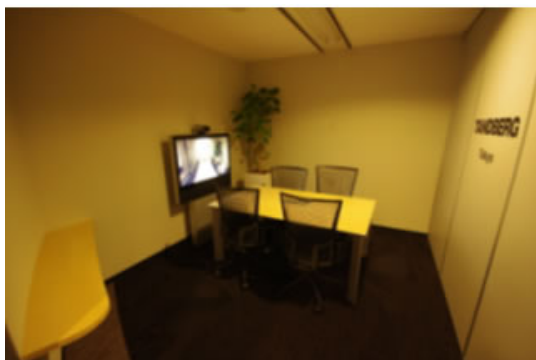
ガラス越しに見えるのは MCU などのインフラ装置。写真左手の画面には、TMS の操作画面が表示されている。

プロダクトショーケースを前方左の方向に進むと、インフラ製品が展示されているコーナー(写真上)に来る。「Codian MCU」などのインフラ装置がガラス越しだが実際に稼働している状況が見られる。左手に見えるディスプレイには、TMS(TANDBERG Management Suite、ビデオ会議ネットワークの運用管理を行うシステム)の操作画面も紹介している。一元的に簡単に運用管理ができるのが特長で大規模運用や端末が多様化した環境では必須のシステム。ここに展示されている TMS は、7 階と 11 階の端末を全て管理している。またこのコーナーで受けた説明によると、数百台規模の導入の要望にも迅速に対応する体制を日本国内にも整えているという。

ここまでが 11 階のフロアで展示されているコーナーで、以下 7 階のフロアに移る。

この 7 階のフロアでは、HD 対応のビデオ会議端末と会議テーブルが設置された、一般的な会議室を再現された部屋が準備されている。ビデオ会議を会議室で使う際のイメージや使用感をつかんでもらうためのものだ。特に初めてビデオ会議を導入する場合こういった EBC はとても便利だと思う。

この EBC には、2~4 人や 6~8 人向けの会議室が一部屋ずつ、また、8~10 人向け役員室や 18 人着席できるオーデトリウムがある。そして、この EBC にはタンバークのハイエンドテレプレゼンス TANDBERG T3 ルームもある。



2～4人向けの会議室

ビデオ会議システムの選定においては、部屋の大きさや用途を考慮すべきとタンバーク社員。それに加え、ディスカッションが主であるのか、あるいは、資料も共有するのかによってディスプレイのサイズと台数を考えたほうが良いという。

このEBCの各会議室では、それらを考慮してビデオ会議端末を設置している。2～4人向けの会議室では、42インチのディスプレイ1台が設置されており、また6～8人向けの会議室では、52インチのディスプレイを2台設置している。さらに、8～10人向け役員室では、65インチのディスプレイを搭載した「TANDBERG Profile 65」を設置。



6～8人向けの会議室



8～10人向け役員室

6～8人向けの部屋では、52インチのディスプレイを2台設置しているが、ディスカッションが主であれば65インチディスプレイ1台でも問題ないという。しかし、資料共有も行うのであれば、やはりディスプレイが2台はあったほうがよいという。なぜなら、相手の顔と資料を1画面で表示しなければならなくなるが、2台あれば、1台の方に相手の顔、そしてもう一台の方に資料を表示できるためだ。そうすれば、ひとつひとつのディスプレイに、人も大きく映せられ、データ資料なども細かいところもよく見える。



18人着席できるオーデトリウム

次に、18人着

席できるオーデトリウム。この部屋では、壁面埋め込みの65インチのディスプレイが2台の他、カメラは、前方の1台と、天井に1台(写真では見えない)設置されている。遠隔地も含めたセミナーやトレーニング用途に最適なルームレイアウトになっている。

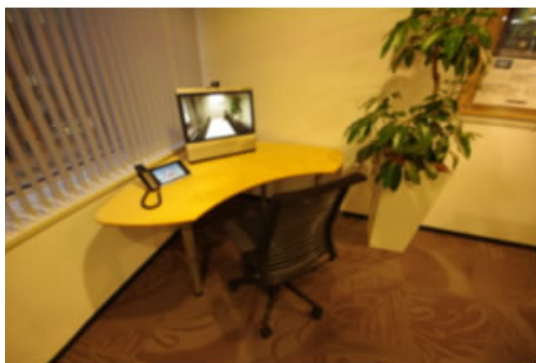
会議室と会議室との間には、ラウンジがある。そこでは、製造、金融、エネルギー、医療、教育と業種毎の導入事例を紹介したパネルを閲覧することができるようになっていたが、各業種においてタンバークのビデオ会議の採用が広がっていることがわかるようになっている。

(次ページへ続く)



ラウンジ、その奥がエグゼクティブデスク

またそのラウンジの奥(写真左端中央、窓ガラスのところ)には、エグゼクティブデスクのコーナーがあり、ここでは TANDBERG EX90 が展示されている。5 月から出荷開始。新製品を体感できるようになっている。



エグゼクティブデスク

EBC のツアーの最後は、「TANDBERG T3」。このテレプレゼンスシステムは、意思決定などハイレベルな用途向きだという。

TANDBERG T3 は、システムに話しかけているのではなく、あたかも目の前に人がいるかのようにフェイスツーフェイスでナチュラルに近いコミュニケーションができることを目的に開発されている。



TANDBERG T3 ルーム

印象としては、静かな部屋の中、落ち着いて、そして、集中して会話ができる環境が提供されている。同室感がテレプレゼンスシステムの胆であると言われているが、コーデックのスペックだけでなく、壁面やシステムなどの色や照明などのインテリア的な要素も加味して、高度で多様な技術が組み合わさってこの環境が実現しているということが T3 を拝見していてよくわかる。

こういったテレプレゼンスシステムを見ることになるとは、10 年前には予想もできなかったが、技術もそこまで進化したのかという感慨深いものがある。これはやはり、ビデオ会議と呼ぶよりは、やはりテレプレゼンスの方がふさわしい呼び方じゃないかという気がする。

EBC ツアーの予約は、日本タンバークまたは、販売代理店にて受け付けている。

(EBC レポート終わり)